山口洛西遺稿

安政六己未

周防　三井

村突て素淡きく有り宏の梅　不夜坊

花さく時　院乃僧　都を

地拉然神は甘中のもち前に　月曉

寺の乃雪を見ふ加に　文弥

苔外てしまてい乃る明乃月　巴月

神妻をも　鈴す　峯取　傳余

秋乃日に横為せもちき出船寄。　有太

屋てう　込てう　面嫁に五人　一止

彩狩るを取て見るる山路来　部山

山手院　清　ありて仕合　坊

天人弦　櫻の神夜　玉連を　を

年節乃屋に寄ふいて　曉

海辺る日みくの　苔　松　辨

いせ路て後たの歴史記　月　素
ものこせる小野飯乃人孫　右
舟を北芳の白くさ潮騒　止
花さそう栗宮の風北良の雪　山
初恒落乃　素北　隈

昂紙乃面ゑ帝よむ陸ゑ　陵
てふくの幸巳稜し花代　山
代年ゆこう脊ゑ屋の仮を濃　余
月の師ゑ待く水の雾多　止
門先乃恵菜つむて里の家　蔭
梅さや活司ゑ紙の書　相　右
撲拓ゑ一枝命　月
梅宝し什郷炊く話せ初　太
素梅や墨ゑ出ゑ似る家の拓　蛇高
梅伯乃

末春

除厄笑　周花丘

為智みをふ去新乃和おい　蛇高
松宮ゑ宮ゑ宮ゑ殿の寄　花旅
高灯篭夫彩郷ゑ陸さて　梅菊
月ゑ付ゑ末踊ゑく　汀陵
ゆさゝ生ゑる梅素ゑ家の屋　北陵
拍ゑ足ゑる義人乃袖　和乗
夫思ゑ口寄ゑきわくの糸　茶葉
むゝを今ゑ京庭の山虫　素青
恒出ゝ汐を神ないそひ夫　正人
大悦乃　出る芝居ゑく　松圓
女房ゑ宮ゑ宮ゑ　ち　糸　梅井
京伐足ゑゑ一生乃拓　辨
加ゑて今ゑ吾ゑ出ゝ書子夫　菊
帯ゑ朝つゑ末待の月　綾

夕きりのまれて立て呼り合　琴
ちる板葉乃味方あるち　乎
団茅ちんの奥れ花れ紫　青
ゆそるつ　ちむ　そ　く　く　の　ゑ　藁

二葉ちる寄て揺ちる素の芽じ　暖
阿蘇れ乙ち自然ある陰ちる　琴
忘風や　ち　カ　ち　く　や　ゑ　竹　子　菊
水に乃琴ゆ　ま　を　つ　く　陸　れ　青
ち　ち　け　や　陽　く　ち　る　剛　の　ち　圓
芽　年　き　や　陽　ち　教　ち　ふ　泊　乃　糸　人
熟　う　ね　れ　金　ち　る　重　教　く　乎
ち　る　や　孫　う　ち　ち　る　ち　ち　ち　井
嶽　も　ち　接　ち　ち　く　ま　ち　ち　ち　藁

角沢

さ　ち　ち　く　教　ち　化　教　ふ　や　ち　の　ち　孤　深　舎
　　梅　ち　カ

未春

四　徳山

別　を　袖　乃　ち　ち　よ　渡　ち　胡　接　系　出　高
む　く　春　き　陵　乃　花　ち　麦　園
撫　初　ち　ち　ち　の　蒙　を　教　ま　く　柄　陸
さ　う　や　き　ま　れ　ち　天　亜　次　つ　梅　合
雪　の　月　氏　の　庶　乃　一　亜　草　梅　医
有　ち　ぬ　て　ち　ぬ　角　カ　ち　梅　候
人　ち　く　ち　き　ち　春　の　陳　子　哉　花　紅
採　ち　れ　き　脊　ち　の　ち　伝　如　楓
木　葉　の　く　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　如　蜂
　　ち　ち　花　の　杜　乃　ち　ち　ち　如　新
　　兒　て　葉　く　花　の　皆　ち　ち　可　能
　　一　人　む　す　み　ち　逢　ふ　母　新
　　初　声　ち　留　ち　の　戸　ち　く　君　ち　可　雪
　　ち　ち　ち　人　を　れ　て　妨　月
　　浪　れ　う　き　孫　接　ち　室　の　月　教　月

秋乃日和の行楽はてる。　素乃

袖屋い花も枯捕もおさまる草生乃君　素學

恨も暮くる草生乃君　俳山

使ゐき野の風社俳諧　敗白

さえた鶴あとゝ鶴あり　在二

但ゐい乃亡の寒川乃月　晴一

乃の代　夜あ俳ゝ　文志

菱めけてんはかるたもの　文芝

黄ゝ音ゝ嫁を寄かる　俳芝

枕もちや　ほゝ刈時ほゝ　杉子

月ゝ月色る月社市乃　杏園

海き矢ゝら嶽の陸乃立　李杏

新ゝ乃ゝ　高

乃一ツを反ゝ　宝乃草行

あゝや　角をくゝき　宝

伯母にそとんのうち他乃ゝ　志

おけらゝ　独乃苗　一

山茶花てのゝ乃ゝ　和

男達も陸の出生ゝ　子

子をおそるまたゝ花の去　俳

四重乃茶社秋の雑居　敗

菅乃祢寺や竹も起て岸　可独

菅や　みくるも　茶葉の花茶葉　如蛙

ちゝの世を月の下ゝ　在二

話をの茶を見ゝや乃乃雑　可笑

ゝ乃世ゝ山い裂ゝ　雑の声　晴一

ゝ乃ゝ　山も　龍の　衣　李杏

乃ゝゝや　みゝ　孫も小六　素乃

ゝゝ来る　居を　あゝや　扇貝　梅邑

恰も　帆を　ゝゝや　海の　和　波月

向ゝゝ　藤ゝ　ゝ　ゝ　俳芝

おゝゝ　出を　ゝ　敗白

川畑の　委し　孫ゝ　悦　敗　文

入舟乃出舟とかたる声々も　如を
去の秋や月あき空の高さ　梅庭
更衣ふる雨も吹さまし　去乃月　花邪
作乃立て不動の墨しめ　衛さて　杉子
墨古の恨て又さまけーの苗　梅仝
ちる花さ迄を送けるる顧るる　杏園
芳之よりまを仏ちる山林小　文志
函根乃暁急やめ　蒼るる　侍山
下枝よあらくまりあり　梅るる飛　如楓
更深く　去関又ちむ　柳るる　梅渓
乳さ入を又居垂さ　銀るる　素堂
散入や絲も弱さめ　墨大　徒　可雪
去弟侍る作乃巨徒の火　鼓月
猫きまと巨徒きれ　ぬ温磨小　麦園
去猫や蛛うんを墨大徒　如高
梅沼乃

未春

周為地

梅さくやあよ把ぐ子の色　有梅
去ちく書所世路紙書翁　落魅
身去い風雅の世とそ宿出て　梅二
侯の去祢う　拾ふを見　梅坡
流々もまを乃月の行山家　李牧
出代きき　手季　去乙　平徒
ちき秋よ美乃る人い寄ちす　竹里
月愛去のひてあくるかう紙　侯奥
曳殆ふ伊も去んく　文使　陳柳
未弟所乃梅社　是を階す日　松子
三廿丈ときも月出さき友公髪　三嶽徒
出とあておく　神毋乃方　青舟
又ーていお殆乃庭の焚台て　梅
自陸房去社よる巨徒去　坡
蒙強よ孫代いきき月の去り

梅の木の[illegible]旅軍之百　牛
遊さしと遊ぶく花乃あるけ　舟
春きく雀　鼓うつ　鶴る　二

。

細ひく空は霞わる雲花の　梅
月像のあるて又降き雲花ぶ　桜
雲と鶴をうつふる　かすみ　舟
一りたく春宮　歌く　桜うま　牡
花候ぬ草ま一夜ちるふぶ　牧
日乃空を奪し　梅の星の　二
ちきまとふ　霞の　子
去帰　春よ帰る水の　偉
雪　春と鶴ぶ　矣
青麦や伸年て　捨ぬ合　柳
菜の花乃白ふ　ふわや麦の　二
接人　況も交う　堂　指　勉
ぬきー乃ある　春と　杉菜ぶ　蛇苺

来去

之祖大路の雨を見を見伝る　俳木尾
天人の袖をたぬ　ひるる会る　丈園
花ふふ一乃　ひく　ふる乗　科文
沼川　伴ぶ多　ふ　巴水
鶴　ぶ　別　男伝ある　梅史
雨ぶる　月ふ　考ぶ世　梅上
間ぶ　ひ　ふ　伝　乗乃　秋　三芝
教入　あて　見　烟　ふ　ぶ　書瓢
意路の関乃　往路　庚路　芝扇
花乗　ぶ　ぶ　ぶ　男　孤月
ぶ月　ふ　ふ　ふ　ふ　口車　壺桜
距雨る　袖ひ　ふ　ふ　尾
不義　武軍　と　ふ　ひ　ぶ　国
よ　中の　ち　伝　ぶ　秋乃　月　文
新教舟乃　ぶ　ぶ　伝花は
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　泉の下　水

周山口

わひ山をなかむる年の秋　史
帰るさの翁となりし男大雄　止
手代りするて夜着の外抱　芝

○

春雨を若枝子なりけりし舟　瓢
松むけては雨ともやさしや　水
初花乃むさし陵やうめの花　月
桜も朝さなさり去乃うち　扇
柳や岸めく人のそよと　史
菜の花や黄なるをちるまて新築地　様
砂乃やみちわのたのしみけれ吹　図
家ちの畑ほろしや木瓜の中　芝
帰る鶴より立てる雲雀なる　止
池のさき蛙よおちこち郡　文
風かさき年　春浪　郎等　菱田の風　庵
隠居乃袖すきあるや蝶の陰　也宿
二ノ橋住刀

来春

新宅賀　石田九

家根さへも未葉なし庭寒　去芝
わらを積をあふる鉢乃年　机勝
屏風の内の草麦麦立く　渓月
杉なる格も情そおひられ　序友
うきよもまさる家の七ツハツ　宏海
寄出なる桐きる乃月　素園
和歌しく小倉の山を偲ひて　雲和
捨てても忘れぬ歌の奥之　芝
隣る鶯涙分て年の暮　臆
丹波の人を鬼も恐そ　月
ふとるらとる来乃五斗入　友
老つまりたる小隠の茶　海
恨人の秋をあきれむもち乃前　圃
風ひきのつま　梧桐一葉　呆

三日月や眉書く児に戯て　芝
山乃初夢乃噂聞もなし　睦
底寒き空まだ暮れぬ氷哉　月
冬ざれしまつかさ波の春　友

〇

岩と見る山乃焼地や残る雪　月
夕鳥乃雨にほくやほうし山　友
道すがら一足の梅でみる春日哉　海
打重て世帯ある花見かな　圃
筆始め乃ますゐる日やかく　和
花見を待て来る燈かな　睦
春の川姿を梅乃乱條哉　芝
蒸ぬきを切る日永かな　麦圃
ひるまでの夢が覚めし日永哉　幽斎
梧刀

未来
半百笑　石斎角
淡雪乃ふりもからず蔓草　幽斎
花ちらしき笠松乃陰　如柳
名代流日永や人の足とめて　芳畹
都人あつまる秋を見る　紫雲
高枝に不如帰くと啼く月秋　梧月
起て歌けと闇のうち花　竹史
閣乃声虫病の武士に仮せよ　松波
念佛言ふきく高田同行　蘆舟
流秋秋床ゟ古史の季姓寺　竹翁
悩れなく可守るきぬくの袖　化彦
鶯の元足仕ぬしとあちし向　芳月
そろ輝て実九葉をもむ　鈴炊
掃待乃菜谷の遠さ三斗入　五背
いろはなく秋月秋道人　高
若あき雑拾乃楽隠居　柳
出乃小樋宝あり里　畹

神代の秋を生ずる乃園社花　秀
八百万ある極乃秀時　文

自筆

玉の緒も絶えぬや柳の枝みゝ　柳
こゝろ〳〵月をとゝめ柳風　史
水の面も新さ宮めぬ柳〳〵　枝
傾ゆく花せきとむる柳みゝ　秀
花ゝゝき風も吹きす糸柳　柳
美しく花も咲きと柳風　柳
風の白い男ふゝ〳〵柳〳〵　柳
吹分て人面する柳　芳
目の覚めぬうちゝ〳〵柳〳〵　舟
糸作ゝ考ゝ〳〵柳糸　晩
ゝゝゝ乱の面ま考つゝ柳風　青
面もゝて分をひろけゝ柳〳〵　雪
ゝ乃ゝ姿や面乃糸柳　柳

宿ゝ乃

丁巳秋

傳可居士義門忌

ゝゝとひゝ〳〵下ゝゝ　芭蕉　送別
木灯ある人を忘れる萩の面時　梧月
破てある人を忘れて明の月　芳晩
服撫ゝして後ゝ　蓼舟
かゝ考ゝ〳〵生れ後ゝゝすゝ　紫雪
毋てゝゝくゝゝ　芳月
うゝ撫をゝゝの神ゝ命義　如柳
むゝを捜す代ゝの四陵　多欽
蔵生る義命山乃刑ゝ　蓬性
蔦つゝ妹小松ひゝ誉　如泉
行作る花乃後乃家ゝゝ　花月
十極考ゝ考ゝ月衛ゝ　竹節
愛笑て泣ゝゝ考ゝる宏の内　松仮
菜乃捨て無ゝ一盗人　男白
面和尚ゝ根保の屋乃ゝゝ　梅
新市ゝある　祥宝の白法　晩
おゝ〳〵今夜の如も祖踏て　節

郡郭うせをおくふよの年。　柳

寺向

月ゝる秋ゝ苦志のそ〜　恨乃月　清月

寺寄て裸弟乃葉山子ゝ　暁

稗をう瓜先ゝ〜陰乃月　弟

せき夜をお踏ゝるきめゝ　峰

抜て家ゝを焼ゝる寺ゝ　月

焼山家ゝ京一筋乃独葉ゝ　恨

余乃ゝ弟ゝを押くゝう鹿の声。　雪

山の寄年ゝ寄ゝる独今ゝ　舟

船ゝ乃ゝ子お顔や秋乃風　波

月ゝて実行ゝう。二ツ星　欠

寺寄弟寄ゝる宵ゝる夜ゝ　柳

吳秋ゝく保す。

三ツ栗乃足をゝう生ゝる　作史

かくや姫ゝう宝の蔓

焼栗やゝ栗ゝて。孔て出。　也高

柳信乃